

1. Report No. UMTRI-2014-20		2. Government Accession No.		3. Recipient's Catalog No.	
4. Title and Subtitle 米国 各州における交通の安全性： 最近の変化と現状				5. Report Date July 2014	
				6. Performing Organization Code 383818	
7. Author(s) Michael Sivak				8. Performing Organization Report No. UMTRI-2014-20	
9. Performing Organization Name and Address The University of Michigan Transportation Research Institute 2901 Baxter Road Ann Arbor, Michigan 48109-2150 U.S.A.				10. Work Unit no. (TRAIS)	
				11. Contract or Grant No.	
12. Sponsoring Agency Name and Address The University of Michigan Sustainable Worldwide Transportation				13. Type of Report and Period Covered	
				14. Sponsoring Agency Code	
15. Supplementary Notes Information about Sustainable Worldwide Transportation is available at http://www.umich.edu/~umtriswt .					
16. Abstract <p>2005 年以降、米国における交通の安全性は大幅に向上した。本研究における重要な点は、米国の各州およびワシントン D.C. における交通の安全性について、最近の変化と現状、両方の視点から実施していることである。この解析には、2 つの重要な尺度が用いられている。走行距離あたりの死亡率と人口あたりの死亡率である。解析に用いるのは、2012 年（利用可能な最新）と 2005 年のデータである。</p> <p>結果は、走行距離あたりの死亡率について大きな変化を示している。2012 年、10 億マイルあたりの死亡率が低いのは、ワシントン D.C. (4.20)、マサチューセッツ (6.24)、そしてミネソタ (6.93)。死亡率が高いのは、ウェストバージニア (17.63)、サウスカロライナ (17.60)、そしてモンタナ (17.25)。同様に 2005 年と 2012 年でのこの比率には大きな変化がみられた。特に極端なのは、ワシントン D.C. (-67.5%)、ネバダ (-48.0%)、そしてアイダホ (-39.0%)。他には、バーモント (+12.7%)、ノースダコタ (+3.8%)、そしてメイン (+2.0%)。人口あたりの死亡率は走行距離あたりの死亡率よりも変化が大きい。2012 年、10 万に対する死亡率が低いのは、ワシントン D.C. (2.37)、マサチューセッツ (5.25)、そしてニューヨーク (5.97)。死亡率が高いのは、ノースダコタ (24.30)、ワイオミング (21.34)、そしてモンタナ (20.40)。走行距離あたりの死亡率がそうであったように、2005 年と 2012 年での人口における死亡率にも大きな変化が見られた。特に変化が大きいのは、ワシントン D.C. (-72.8%)、ネバダ (-47.1%)、そしてアイダホ (-40.1%)。他には、ノースダコタ (+25.8%)、バーモント (+4.9%)、そしてメイン (-3.5%)。</p>					
17. Key Words 道路、交通、安全、米国、州、走行距離あたりの死亡率、人口あたりの死亡率、現状、近年、最近				18. Distribution Statement Unlimited	
19. Security Classification (of this report) None		20. Security Classification (of this page) None		21. No. of Pages 20	
22. Price					